

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102301		
法人名	株式会社 望星		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 北杜の郷 1丁目		
所在地	熊本市北区小糸山町718番地		
自己評価作成日	令和5年 12月 25日	評価結果市町村報告日	令和6年 3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①夢の「新3K職場」を目指して取り組んでいる。 ・入居者に感動をあたえる介護 ・入居者と職員が共に感激する介護 ・ご家族に感謝される介護 ②コロナ禍にて面会制限をさせて頂いている昨今、近況をお伝える為に毎月の写真での会報や手紙でのやり取りなどご家族との関係性を絶やさないよう情報を発信している。 ③地域貢献の一環として町内の回覧板に「北杜たより」として、福祉や健康面での情報発信を毎月15区域に発信させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より5年、開設間もなくのコロナ禍により面会制限等もある中、事業所・家族・地域と共に入居者を支える取組みを見ることができました。理念を根幹に、夢の新3K職場を目指した取組みにより、職員育成にも力を入れておられ、今年介護面だけでなく職員のストレスケアの勉強会も行われました。職員面談では、入居者の生活歴を大切にされた上で楽しみを持ち、一人ひとり個性を持った生活を送って頂きたいとの思いのもと、「最期にここで良かったと思ってもらえるような介護を」と日頃の取組みの様子が聞かれました。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102301		
法人名	株式会社 望星		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 北杜の郷 2丁目		
所在地	熊本市北区小糸山町718番地		
自己評価作成日	令和5年 12月 25日	評価結果市町村報告日	令和6年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①夢の「新3K職場」を目指して取り組んでいる。 ・入居者に感動をあたえる介護 ・入居者と職員が共に感激する介護 ・ご家族に感謝される介護 ②コロナ禍にて面会制限をさせて頂いている昨今、近況をお伝える為に毎月の写真での会報や手紙でのやり取りなどご家族との関係性を絶やさぬよう情報を発信している。 ③地域貢献の一環として町内の回覧板に「北杜たより」として、福祉や健康面での情報発信を毎月15区域に発信させて頂いている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をユニットの壁に貼り、職員が理念を意識して介護サービスが提供できるよう日頃より心掛けている。	法人理念である「で愛・ふれ愛・たすけ愛」は親しみやすく、施設理念・夢の「新3K職場」を目指した取組みと、職員の日頃のケアの基礎とされている。介護計画作成時には法人理念を活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に一度の地域清掃活動には必ず参加。また、地域の夏祭りに職員が食バザーの手伝いに参加し交流の場を作るなど、地域とのかかわりを行った。	地域の清掃活動や夏祭り等、地域の一員としての参加が行われている。運営推進会議を利用し、地域住民、地域包括支援センター等と地域の課題の把握や情報交換を行っている。地域包括支援センター主催の行事の際は施設開放も行った。	事業所と地域の関わりは日常的なものであり、地域住民としての関わりがありました。可能となった際には、入居者と地域の繋がりを感じる取組みの実現に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を開放し体操教室を開催。近隣の方々を招いて、利用者と一緒に体操や手遊びを行った。再びコロナが蔓延し継続した開催が現在出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より担当の委員会を立ち上げた。情報や意見交換をした内容は各ユニットに書面報告。翌月の全体会議で担当委員会が職員へ再周知している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議もあり、地域包括とは普段より情報交換をしている。認知症介護や独居高齢者など地域で取り組む問題の拠点となるよう今後も行政と共に考えていく。	運営推進会議には地域包括支援センターの参加があり、事業所の取組みを伝えている。運営推進会議の際には地域包括支援センターからの研修案内や事業所の課題共有も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会が中心となり、身体拘束についての勉強会を行っている。また、定期的な委員会開催を行い現状の問題点や取り組みを評価し、職員全体への周知をしている。	委員会は事業所職員で構成しており、担当職員を中心に勉強会を行っている。定期的な委員会開催時には課題や有無・必要性等を検討している。拘束にあたる事例が発生した際には、常時ではなく最も必要とされる時間帯、継続の必要性も検討し、家族の同意を頂きながら弁護士への相談も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり、高齢者虐待防止について勉強会や定期的な委員会開催による意見交換など、日頃のケアを見直し、不適切なケアが無い話し合い、虐待防止に努めている。		

グループホーム 北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について、委員会が中心となり内部研修で勉強会を開催している。今後は外部研修に参加するなど、学ぶ機会を増やしていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人やご家族様に対し、分かりやすく説明し納得して頂き、同意を得たうえで署名・捺印をして頂いている。また、疑問や要望に対しても十分な説明と同意を得たうえで安心して入所契約となるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の代表者が、運営推進会議の参加者となって頂き、運営や地域への取り組み状況などお伝えしており、貴重なご意見も頂いている。会議の内容は後日全職員へ書面報告している。	この数年は感染症対策のための面会制限期間もあったが、短時間でもできるだけ受入れ、家族の意見や要望をうかがう機会を作った。電話等での入居者の状態報告時にも意見を確認している。運営推進会議には家族会代表の参加があり、意見交換を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議に、代表者・管理者が出席。運営や業務内容について意見を出し合い、全体で検討し改善に努めている。	日頃より職員は管理者へ意見や提案を表すことができる。毎月の職員会議には法人代表も参加することから直接意見を伝える場も設けている。半年に1回の管理者による個人面談も行われ、ストレス軽減に向けた取り組みも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は半年に1回、職員個々と面談し勤務状況の把握や、やりがいなど各自の努力や実績に見合った給料基準の見直しを行い各自が向上心を持って働ける環境作りを整備し、職員の意見も取り入れ改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップに必要な研修を受ける機会を勤務時間内に参加出来るよう配慮している。研修の情報を掲示し、希望する職員には今年度も認知症実践者や管理者研修など資格取得へのサポートをおこなった		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会が実施している研修会に参加。サービスの質の向上に向けての勉強会に参加し、意見交換や情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に病院やご自宅に訪問し、これまでの生活状況をお伺いし、ご利用にあたっての心配事やご希望を十分に聞き、職員間で情報を共有しケアにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・相談の段階で御家族様と時間を掛けお話しし、ご利用料金やサービス面での不安や疑念に思われていることに丁寧に納得いくまでお答えし、安心してご利用が開始出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院・ご自宅に訪問する際には、ケアマネと介護士が同行し、ご本人やご家族様の現在の状況や他サービスの利用状況など鑑みて、ご本人とご家族にとって幸せな選択となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者は親、職員は子供。幸せ円満家族」と、ホール内に掲示。職員は家族と同じような対等の立場で接するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も支援者の一人として、細やかな状況の説明や、施設での様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で制限していたが、12月からは家族の希望で受け入れが整っていれば、短時間の外出や外泊を受け入れている。	感染対策により馴染みの人や場との関係支援は難しい状況であり、この数年は状況判断をしながら家族との関係が希薄にならないよう支援を行ってきた。昨年からは同法人の保育園等の子ども達の来訪も受け入れており、入所後の新たな馴染みの関係作りにも繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を判断して、テーブルやソファの配席を考えている。また、利用者同士が円滑に関われるよう職員が間に入り関係作りを支援している。		

グループホーム 北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても継続的に支援が必要とされる利用者やご家族には、かかわりを持つようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、困っている事や必要としている事、または、挑戦したいことなど聞き出し、ニーズの把握に努めカンファレンスにあげている。その時の状況に合わせてつ、本人本位になるよう検討している。	日頃の入居者の寄り添いの中で、言葉や仕草等で思いや意向の把握を行っており、現状は思いを表すことができる入居者も多い。把握した意向は実現に向け取り組んでおり、必要に応じ介護計画にも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から情報を得たアセスを基に職員会議で検討会を行い、一人一人の生活に合わせたケアプランを作成。馴染みのある過ごしやすい環境になるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間でご本人が出来る事、できない事を見極め、やりがいを持った生活支援になるよう日々のケアの中でも観察をし検討している。また、これまでの生活スタイルを把握し、本人のニーズに合った過ごし方を尊重するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書のモニタリングは、ご家族より意見や要望を伺い、必要時にはカンファレンスを行いプランの見直しに反映している。	入居時にこれまでの生活歴をしっかりと聞き、それを基に入居後は「一人ひとり個性を持つ」よう計画を作成している。家族面会の際には入居者には職員、家族にはケアマネージャーが付き添い、意向の確認を行っている。ケアマネージャーは都度職員に入居者の困り事や気付きを確認しており、必要に応じカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	医師等関係機関の意見や家族の意向等も確認し、介護計画へ反映されている現状が聞かれました。面会制限が解除された後には家族の担当者会議への参加も検討されているようです。実現に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア状況は記録や口頭申し送りにて周知徹底に努めており、職員間の情報共有ができています。また、理念に沿った介護計画の作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療医による協力医療機関との連携を図り、主治医・調剤薬局・施設看護師・ケアマネで情報共有ができる関係性を作り、共有アプリを使った連携体制を今年度より導入し活用している。		

グループホーム 北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人のニーズをもとに資源活動が出来るように努め、意向に沿った支援が行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に相談・説明し、かかりつけ医を訪問診療医に変更できるように情報交換を行っている。その他専門医は看護職付き添いによる通院で、都度ご家族には状況を説明している。	入居後、協力医による訪問診療への変更を家族へ相談している。歯科は必要時に訪問診療にて治療を受ける。専門医通院の際は、都度家族へ状況を説明し、情報を共有している。今後、入居時には認知症について専門医の意見の有無を確認し、入居後の適切なケアに繋げるよう検討しているところである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきは事業所の看護師に報告。必要時には看護師が主治医の判断を受けられる様、情報共有アプリを使って指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には状況報告書を提供し、医療機関との情報交換を行っている。入院中も定期的に情報共有をし連携が取れる体制を作り、退院前カンファレンス会議に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状、入居時に家族の意向をお尋ねし、重度化及び看取りに対する事業所の方針を説明している。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針と対応を説明し、家族の意向を確認している。現在は職員の見解も確認した上で支援の体制を整えるため取り組んでいるところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルを作成しており、勉強会での周知徹底や緊急対応時の電話連絡網訓練などおこない、対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜間を想定し全職員が災害時に行動できるよう訓練や勉強会を定期的に行っている。	火災避難訓練を定期的に行っている他、電話を利用した緊急連絡網での伝達訓練も行い、訓練後には毎回課題・反省を確認している。訓練の際は夜勤専従職員の参加もある。消防防災委員会により職員研修も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人権を尊重した声掛けや対応をしており、排泄や入浴など自尊心に配慮したケアを日々行っている。	入居者一人ひとりの個性を大切にした支援に取り組んでおり、日々の生活も入居者のペースを大切にしている。入居者への声掛けの際にも言葉や方法にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者が自分で選択しやすいような質問を行い、少しでも本人の思いに寄り添った支援になるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での一日の流れはあるが、本人のペースに合わせ、本人が穏やかに施設での暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や髪を整えるなど、ご自分で出来るように身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の厨房内で調理を行っている。台拭きやお茶入れなど、ご利用者はやりがいを持ってお手伝いをされる。	事業所内の厨房で職員の手作りによる食事を提供している。調理担当職員は職員会議にも参加することで入居者の状況も共有しており、日常的に入居者の顔を見て把握している。お好み焼きや保存食作り等、入居者も共に行う機会も継続しており、活気ある姿も見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を行い、増減が大きい場合は訪問診療にて主治医に意見を仰ぎ、それを基に家族と相談し、食事量など調整対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・支援を行っている。不自由な所は一部支援を行い口腔内の清潔に努めている。		

グループホーム 北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄が継続するよう個々に対応している。夜間はオムツや誘導などそれぞれに合わせたケアを行っている。	出来るだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。昼間は入居者に合わせ声掛け等で誘導し、夜間はポータブルトイレやパット交換等、それぞれの身体状況に合わせて個々に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、歩行訓練など運動を働き掛け、こまめな水分補給をおこなっている。事業所の勧めもあり、便秘傾向のご利用者の3割がヤクルトを定期購入している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴を基本としている。入浴前には着る服をご本人に選んで頂き選択する楽しみと支援を行っている。過度な介助はせず、洗身などご自身で出来るよう支援している。	週2回以上の入浴を支援している。2ユニット共有の2ヶ所の浴室は一般浴・機械浴であり、入居者それぞれの身体状況により使い分け、できるだけ浴槽を利用して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にはパジャマに更衣して頂き、状況に合わせて職員と会話をしたりテレビ鑑賞をされている。夕方から帰宅願望が強くなる方もいる為、「安心できる場所」だと思っただけの環境作りに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の把握については、看護師だけではなく介護職員もしっかり確認して内服支援が出来るよう勉強会にて研修をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、花の好きな入居者には花壇に花を植えたり、苗植えや水やり・収穫を行った。歌の好きな方は、数人で一緒に歌ったり、カラオケで披露する場を設ける等し、楽しみのある生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出が出来なかった。天気の良い暖かい日には敷地内で日向ぼっこや野菜栽培など、外気に触れ季節を感じて頂けるよう努めた。	感染症対策によりこの数年は気軽な外出が難しい状況であったが、敷地内には季節の花木を楽しむことができ、外気に触れる機会は日常的にある。花を植えたり、野菜を育てたりと、季節を感じる入居者もおられる。家族の協力が得られる際には一時帰宅等もある。	

グループホーム 北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族と相談し、個々の能力に沿って施設が預かる金額と本人が管理する金額を決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に事前に説明しており、入居しても家族や友人との関係性は継続できる体制を作っている。家族の協力もあり、入居されても本人の希望で電話することができ、家族との関りが継続しているという安心感に繋がっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室横にはトイレが4か所設置しており、ホールの中央にはテーブル。ソファやテーブルなど好きな場所で過ごすことが出来る。壁画や花瓶には季節の物が飾られている。	入居者が集うことも多い食堂には、食卓の他ソファも置かれており、思い思いに好きな場所で過ごすことができる。入居者の生活は自由で、それぞれのペースでリビングで過ごしたり居室で過ごす等、様々な様子が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも新聞を読んだり、テレビ鑑賞をされる。ソファに座り懐かしい音楽を聴きながら利用者同士で語り合ったり、職員と談話をしたりと個々の時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族へも依頼し、できるだけ使い慣れた生活品の持ち込みを依頼している。居室には写真や位牌を持ち込まれるなど、本人が安心して施設生活が送れるよう家族と協力して行っている。	入居以前から使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼してしており、写真等、家族の協力も感じる事ができる居室の設えである。居室で一人で過ごして頂く時間も大切にしていることから、安全にも配慮し、混乱のないよう、生活しやすい環境作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間でもトイレが居室の横にある事で、安心してトイレで排泄が出来るよう支援している。施設内での1日の流れや、物の位置はなるべく変えないなど、本人の「できること」「わかること」を活かして生活できるよう支援している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム北柱の郷

作成日 令和 6年 3月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	職員ひとりひとりの努力や向上心が目に見える形で評価され、給料基準の見直しや評価を必要としている。	各自が向上心を持って、働ける環境作りを整備していく。	全職員に対し目標達成計画シートを配布。 3カ月おきに自己評価し、個々の介護技術やスキルアップへの挑戦を評価していく。	1 2 か月
2	13	介護研修や認知症ケア研修の参加や資格取得への情報発信はあったが、実際の希望者が少ない。	個々のスキルアップへの挑戦を、法人内外での研修や講習を受ける環境を取り入れ整備する。	目標達成計画シートと連動し、研修や資格取得に向けた細かい情報発信を行っていく。	1 2 か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。